

国際化学肥料ニュース（2025 年 3 月）

肥料業界の 2025 年 3 月動態

＊ 2 月最終週（2 月 24～3 月 2 日）の尿素国際相場は弱気が現れた。西半球では、アメリカと南米市場が不振で、FOB Nola 価格が 380 ドル／トン、大粒尿素的 CFR ブラジル価格が 420～425 ドル／トンに前週に続いて小幅に下がった。Incofe 社の行った中南米向けの大粒尿素国際入札では最低応札価格が CFR430 ドル／トンに下がった。ナイジェリア Dangote 社が FOB415 ドル／トンで 2 件計 3 万トン尿素を販売した。エジプト産尿素は全く取引がなかった。

東半球では、インドネシア Kaltim 社は大粒尿素的の販売入札を取りやめた。その理由は最高応札価格が FOB 410 ドル／トンで、期待値に達していない。イラン Pardis 社は久しぶりに FOB 385.30 ドル／トンで 3 万トン尿素を販売した。中東産尿素は問合せがあったものの契約に至らなかったため、FOB 価格が小幅に下がった。

＊ ポーランドの Grupa Azoty 社は EU の天然ガス価格の高騰とエネルギー転換政策により肥料原料用のアンモニアコストを抑えるため、所有する Mijanka 港に北アフリカ産アンモニアの荷下ろしを完了したことを発表した。これはポーランドが初めて北アフリカからアンモニアを輸入して、肥料生産コストを下げるだけでなく、港湾インフラを活用して EU 向けのアンモニア輸入で新たな事業分野の機会を創出する計画の一環でもあると述べた。

＊ 3 月 6 日、中国窒素肥料工業協会は杭州市に開催された会議に於いて、尿素的の適切な輸出は中国の窒素肥料産業、とりわけ尿素的産業の健全な発展に必要であることを指摘した。

中国 2024 年末現在の尿素的生産能力が前年同期より 196 万トン増の 6919 万トン、実生産量が 6.9%増の 6723.7 万吨。2025 年にさらに新規生産能力 660 万トン増加し、そのうち 3 カ所の計 190 万トンが上半期に稼働し始まる。2025 年の窒素肥料生産量（N 換算）4970 万トン、尿素的実生産量が 7100 万トンに達する可能性があるとして予測される。

しかし、需要面において、中国政府農業農村省の予測では 2025 年窒素肥料需要量（N 換算）約 2599.8 万トン、2024 年より若干増える程度で、工業分野の窒素需要量（N 換算）約 1130 万トン、そのうち尿素的需要量 2200 万トン。それを元に計算すれば、2025 年に約 500～800 万トンの尿素的余剰量が発生する。余剰量の捌き口としての輸

出に於いて、中国政府が厳しい輸出規制を敷いて、2024年の窒素肥料輸出量（N換算）が16.7%減、特に尿素輸出量が93.8%減の26.3万トンしかなかった。

中国窒素肥料工業協会は政府に対して、国内需要を満たし、国内価格の安定化を維持するうえで尿素を適時適量に輸出することが窒素肥料業界の健全な発展に必要なことを要請する。

- * 3月第1週（3～9日）の尿素国際相場は2週連続下落している。東半球では、インドの新しい尿素国際入札が発表されず、中東産と東南アジア産尿素が軒並みに下がった。カタールの qatarenenergy 社は販売入札で4月輸出の尿素を FOB415 ドル／トンで契約したが、インドネシアの Kaltim 社は最高入札価格 FOB390 ドル／トンを受け、3月第2週に開札された尿素販売入札を取り消した。イランは天然ガス不足が解消して、3月下旬から尿素生産を正常に戻す予定である。

西半球では、エチオピアの EABC 社は尿素国際入札の応札価格が高すぎる理由で30万トンの購入をキャンセルした。ナイジェリア Dangote 社はまだ3月生産分に余裕があり、買手を探している。エジプト産大粒尿素的の FOB 価格が 435～440 ドル／トンに下がった。FOB アメリカ Nola 価格が 382～395 ドル／トン、大粒尿素的の CFR ブラジル価格が 410～415 ドル／トンに下落した。

- * 中国税関の速報によれば、2025年1月2月の中国化学肥料輸出量が31%増の224万トン、その内訳は尿素2,600トン、硫安121万トン、DAP2.4万トン、MAP2万トン。2025年2月の中国化学肥料輸出量が88.4%増の243万トン、その内訳は尿素1,400トン、硫安136万トン、DAP4.2万トン、MAP1.2万トン。1～2月の尿素輸出が厳しく規制されて、79.9%減った代わりに、硫安の輸出量が39.2%増えた。DAPとMAPの輸出量も40～60%以上減少された。

一方、2025年1月の中国化学肥料輸入量が23.4%減の128万トン、その内訳は塩化加里119万トン、NPK化成肥料9万トン。2025年2月の中国化学肥料輸入量が25.8%増の122万トン、その内訳は塩化加里112万トン、NPK化成肥料8万トン。

- * 3月第2週（10～16日）の尿素国際相場は3週連続下落した。主な理由は最大需要家のインドが尿素国際入札を行わないため、中東などの在庫がだぶつき、低迷雰囲気まん延している。東半球では中東産大粒尿素的の FOB 価格が 390～400 ドル／トンに下落して、2月中旬より40ドル以上も安くなった。マレーシアとインドネシア産大粒尿素的の FOB 価格も400ドル／トン台に下がった。イランの尿素工場がほぼ正常稼働となり、4月から平年通りの数量を輸出することが可能となる。

西半球ではエジプト産大粒尿素の FOB 価格が 410 ドル／トン台に下落して、バルト海の小粒尿素 FOB 価格が 360 ドル／トン以下、大粒尿素も 360 ドル／トン台に下がった。南米の需要期が過ぎて、大粒尿素の CFR ブラジル価格が 390～405 ドル／トン、アメリカ尿素の FOB Nola が 380～385 ドル／トンに下がった。

＊ インドネシア国営 Pupuk Indonesia 社は 5 月納品の 2 件塩化加里国際入札を行った。開札の結果、2 万トン普通塩化加里の応札価格が CFR335～360 ドル／トン、8,000 トン大粒塩化加里の応札価格が CFR355～435 ドル／トンである。最低応札価格が現在の CFR 東南アジアのスポット価格（普通塩化加里 315～330 ドル／トン、大粒塩化加里 335～345 ドル／トン）より高くなっている。

＊ 3 月第 3 週（17～23 日）の尿素国際相場は噂されているインドの尿素国際入札がなく、引き続き不振で、主要輸出国の FOB 価格が前週より 20 ドル／トンも下落した。

東半球では中東産大粒尿素の FOB 価格が 375～385 ドル／トンに下落したが、買手が全く現れず、インドネシア産大粒尿素の FOB 価格も 375～380 ドル／トンまで下がった。なお、インドネシア Kaltim 社の大粒尿素販売入札は 3 月 28 日に締め切りと開札の予定である。

西半球では、EU の需要期が過ぎたせいで、エジプト産大粒尿素の FOB 価格が 380 ドル／トン台になって、4 か月ぶりに 400 ドルを下回った。ナイジェリア Dangote 社は 3 月 17 日に大粒尿素販売入札を行い、3 月末～4 月上旬製品の販売先を探している。南米では大粒尿素の CFR ブラジル価格が 365～375 ドル／トン、アメリカの FOB Nola 価格も 365～384 ドル／トンに下落した。

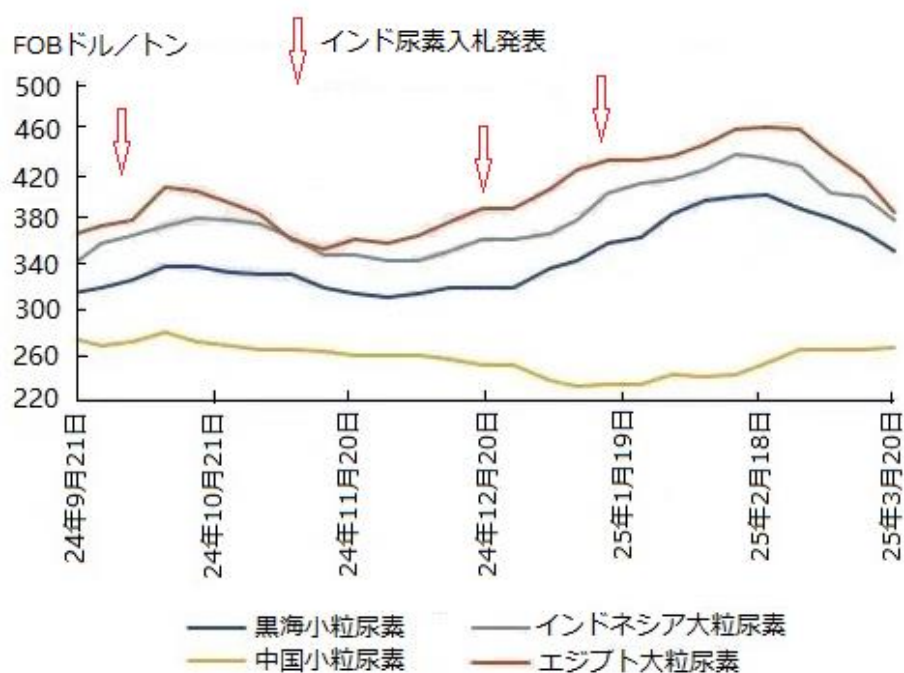
＊ 3 月 26 日インド IPL 社が尿素国際入札を発表した。予定される購買数量は西海岸 80 万トン、東海岸 70 万トンの計 150 万トン。4 月 8 日締め切りと開札、6 月 12 日まで船積みという条件である。これはインド今年の 2 回目に尿素国際入札である。

＊ 4 月のアンモニア国際市況が下落傾向にある。アメリカと EU はテキサス州にある Gulf Coast アンモニア工場の完成により、月 10 万トンの新規生産能力が供給可能となり、玉が余った感じで、最新のフロリダ向けの 4 月積み契約価格が 3 月より 25 ドル下落して、CFR 435 ドル／トンで決定された。中東と東南アジアでは、インドなど主要輸入国が季節的な需要低迷期に入り、アンモニアの需要が減少した。世界最大のアンモニア需要家モロッコの OCP 社は毎月平均 15 万トンアンモニアを輸入するが、2022 年のロシアによるウクライナ侵攻でロシアからの輸入が途絶え、中東からの輸入に切り替え

たが、紅海ルートの危険性を考慮して、大西洋彼岸の Gulf Coast アンモニア工場からの輸入に変更する可能性がある。

- * 最大の尿素輸入国インドの尿素国際入札の有無が尿素の市況に大きな影響を及ぼすことが明白となった。下図は 2024 年 9 月第 3 週～2025 年 3 月第 3 週の黒海と中国産小粒尿素、インドネシアとエジプト産大粒尿素的の FOB 価格の変動を示す。

2024 年 9 月 19 日インド RCF 社が 10 月 3 日締切りの尿素国際入札を発表し、その後の FOB 価格が 20～40 ドルも上がった。2024 年 12 月 9 日インド NFL 社が 12 月 19 日締切りの尿素国際入札を発表してから下落していた FOB 価格がすぐ上昇に転じた。1 ヶ月後の 2025 年 1 月 11 日にインド RCF 社が 1 月 23 日締切りの尿素国際入札を発表し、相場の高騰に拍車をかかった。2024 年 9 月上旬に比べて、約 100 ドルも上がった。対照として、中国尿素は政府の厳しい規制を受け、実質上の輸出が不可能となり、象徴的に FOB 価格を提示するだけである。



2024年9月～2025年3月主要尿素産出国のFOB価格推移

- * 3 月第 4 週（24～30 日）の尿素国際相場は乱高下が見られた。インド IPL 社の尿素国際入札が発表された日（3 月 26 日）のインドネシア産大粒尿素的の FOB 価格が 371～380 ドル／トンで、4 週間前の 2 月下旬より 51 ドル、エジプト産大粒尿素的の FOB 価格が 360 ドル／トン台で 2 月下旬より 90 ドルも下がった。ロシア産小粒尿素的の FOB 黒海も 340～350 ドル／トンで 2 月下旬より 45 ドル安くなった。

しかし、3月26日夜、インド IPL 社の尿素国際入札が発表され、主要産出国の尿素価格が反転した。3月27日にインドネシア Kaltim 社は FOB377.5 ドル／トンで 4.5 万トン大粒尿素、Pupuk 社が FOB389 ドル／トンで 1.2 万トン小粒尿素を販売した。エジプト産大粒尿素的の FOB 価格も 360 ドル後半に安定して、Mopco 社が 3月27日に FOB370 ドル／トンで 6000 トンを販売した。CFR ブラジル向けの大粒尿素的の CFR 価格が週初めに 355 ドル／トンであったが、週末には 360～365 ドル／トンに上がり、アメリカの FOB Nola 価格も 370 ドル／トンに上がった。

- * 中国は世界最大のりん鉱石採掘国で、2022 年までにりん鉱石を輸出していたが、電気自動車に使うリチウム電池の需要が急増し、その原料となるりん酸鉄リチウムに高品質りん鉱石が使用されるようになり、2023 年から高品質のりん鉱石輸入量が増加した。エジプトとヨルダンが主な輸入元である。2025 年 1～2 月のりん鉱石輸入量が 14 万トン、そのうちヨルダンから 9.2 万トン、エジプトから 2.6 万トン、パキスタンから 2.2 万トンを輸入した。

大手各社の営業業績

- * 世界最大の加里企業カナダの Nutrien 社は 2024 年の業績を発表した。加里など肥料価格の下落で売上高が 11.6%減の 259.72 億ドル、EBITDA が 11.6%減の 53.55 億ドル、純利益が 45.4%減の 7 億ドルである。各肥料品目の業績は加里肥料販売量が 5.1%増の 1388.6 万トン、売上高が 20.4%減の 29.89 億ドル、窒素肥料販売量が 2.6%増の 1069.4 万トン、売上高が 11.0%減の 37.45 億ドル、りん酸肥料を含むりん酸塩販売量が 4.6%減の 243.4 万トン、売上高が 16.9%減の 16.57 億ドル。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * アメリカの KBR 社はアフリカのアンゴラ Soyo 市にある肥料工場の建設プロジェクトを支援するため、アンゴラの Amufert 社からプロジェクト管理コンサルティング（PMC）サービスの契約を獲得したと発表した。この契約は、KBR がすでに同プロジェクトで契約した技術ライセンス、独自のエンジニアリング設計、機器、触媒ソリューション項目に加えるものである。

アンゴラの Soyo 肥料工場は 2,300 トン／日のアンモニアと 4,000 トン／日の尿素生産能力を計画しており、総投資額 20 億ドル、生産される尿素などはアンゴラだけではなく、近隣諸国にも供給し、アフリカの食糧安全保障能力の向上に役立つという。

- * アイルランドの OMEX 社はアイスランド南部の Cork 港にアイルランド初かつ最大の専用液体肥料流通拠点を正式にオープンした。その拠点はアイルランド最大の液体窒素

肥料の貯蔵能力があり、主要な農業地域をすべてカバーできる戦略的な位置となり、全国の農家が高品質の液体肥料を安定的に利用できるようになる。

- * インドの Gujarat Narmada Valley Fertilizers & Chemicals Ltd. (GNFC) 社はグジャラート州 Bharuch 市に第 3 の硝酸プラント (WNA - III) を建設する。プラントの生産能力は、硝酸 600 トン／日で、インド最大の硝酸施設の 1 つとして、硝酸製造から窒素酸化物を排除することで温室効果ガス (GHG) 排出量を削減することを狙っている。同社の WNA - I および WNA - II プラントの建設に実績のあるドイツの thyssenkrupp Uhde 社は WNA - III の総合施工契約 (ライセンス、基本エンジニアリング、詳細エンジニアリング、調達、建設、試運転、スタートアップ サービスなど) を獲得した。
- * ドイツの Mabanft GmbH 社がアメリカテキサス州 Texas City にある Gulf Coast Ammonia (GCA) プロジェクトの稼働が始まったと発表した。Gulf Coast Ammonia プロジェクトは年間アンモニア生産能力 130 万トンの世界最大級のアンモニア生産施設で、2020 年に建設が開始し、2025 年 3 月に完成した。3 月中旬に最初の 1.5 万トンアンモニアが船積みされ、ノルウェー Yara 社の Article Circle 肥料工場に輸出された。
- * モロッコの OCP 社は新たに Meskala 市と Mzinda 村 にそれぞれりん酸肥料生産拠点を設立すると発表した。この 2 ヶ所に重過りん酸石灰 (TPS と TPS+) の生産設備を設け、まず 2026 年に 450 万トン生産能力を稼働させ、2028 年に生産能力を 900 万トンに拡張させる計画である。りん酸肥料に対する世界的需要が高まり、りん安 (DAP、MAP) ではなく、生産設備と生産工程が簡単で、建設期間が短く、投資額が抑えられる重過りん酸石灰を選んだ。
- * 中央アジアのキルギスは南部の Osh 州 Osh 市に国内初の化学肥料工場を建設すると発表した。国営キルギス化学肥料工場は中国「一帯一路」の重要な援助項目で、設計生産能力は年間 20 万トン化成肥料で、第 1 期 10 万トン腐植酸系化学肥料の生産設備がすでに据え付け始まった。

その他

- * イタリアの NEXTCHEM (MAIRE) 社がサウジアラビアの SATORP 社から Jubail 製油所の硫黄回収施設に関連するエンジニアリングおよび技術サービスを提供する 3 年契約を獲得したことを発表した。具体的内容は、硫黄回収コンプレックスを構成する 3 つのユニット (硫黄回収ユニット (SRU)、アミン再生ユニット、酸性水ストリッパー) の

パフォーマンスを強化し、運用上のトラブルシューティングをサポートし、エネルギー効率を改善し、二酸化炭素排出量を削減するためのプロセスおよびエンジニアリングアドバイザー サービスを提供することである。

SATORP 社はサウジアラムコ (Saudi Aramco) と Total Energies の合弁会社で、Jubail などに石油の製油所を持っている。回収した硫黄は中国、モロッコ、インドなどに輸出して、硫酸を作り、りん安などのりん酸系肥料の生産に使われる。

- * アメリカの Michigan Potash & Salt (ミシガン・ポタッシュ) 社は塩化加里生産の副産物として、新たな塩事業を開始し年間 100 万トン食塩を生産することを発表した。製品は食品用のほか、融雪剤など工業用途にも使用される。2025 年 1 月、アメリカ政府エネルギー省の融資プログラム局 (LPO) はミシガン・ポタッシュ社に対し、高度の技術でエネルギー効率の高い塩化加里および食塩を生産するために、最大 12 億 6,000 万ドルの条件付き融資を約束した。
- * オランダの OCI Global 社は Raiffeisen Waren-Zentrale Rhein-Main AG 社 (RWZ) と戦略的提携を結び、RWZ と BASF の子会社 KlimaPartner Landwirtschaft に低炭素肥料を供給することになる。OCI Global 社は、低炭素の硝酸カルシウムアンモニウム (CAN)、窒素硫黄肥料 (CAN+S)などに使うアンモニアが天然ガスではなく、バイオガスを使用して合成されるため、生産時の CO₂ 排出量が最大 60% 削減される。2024 年に約 8,200 ヘクタールの冬小麦耕地が KlimaPartner Landwirtschaft プログラムに参加して、作物収量 1 トンあたりの CO₂ 換算排出量を 30%削減することを目指している。
- * スイスの特殊化学品会社 Clariant 社はアンモニアから硝酸を作る際に使う特殊な触媒 (商品名: Clariant's EnviCat N₂O-S) が亜酸化窒素の削減に非常に効果があると発表した。2024 年 10 月からインドの GNFC 社の硝酸プラントに当該触媒を設置して、4 か月の監視データでは 44,000TPN CO₂ e に相当する N₂O の排出量を削減したと実証されているという。